

第8回狛江市基本計画策定第一分科会会議録

- 1 日 時 令和元年9月18日(水)午後7時～8時54分
- 2 場 所 狛江市役所4階 特別会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
副委員長 平谷 英明 委 員 五十嵐 夕介
委 員 猿谷 享子 委 員 柴崎 雅代
委 員 都築 完 委 員 吉田 尚子
事務局 佐々木企画調整担当主任 池田企画調整担当主任
- 4 欠席者
- 5 議 題 1. 全体整理について
 - ・ 1 人権が尊重され、市民が主役となるまち
 - ・ 2 安心して暮らせる安全なまち
 - ・ 8 持続可能な自治体経営2. その他
- 6 会議概要

議題1 全体整理について

事務局 本来であれば、「1 人権が尊重され、市民が主役となるまち」から順番に議論していく予定であったが、この分野の有識者である上田副委員長から、会議に20～30分程度遅れる旨の連絡があった。そのため、先に「2 安心して暮らせる安全なまち」を議論し、上田副委員長到着後、「1 人権が尊重され、市民が主役となるまち」について議論していきたいと思うがよろしいか。

(一同了承)

- ・ 2 安心して暮らせる安全なまち
- －事務局より資料の説明－

委員長 まずは、「2 安心して暮らせる安全なまち」について議論していただきたい。

平谷委員 まず、文言整理について、「①防災体制の充実」の方向性1の3つ目の「コンパクトである地域特性」と「②防犯対策の強化」の方向性2「コンパクトである地域特性」は統一した表現となっているが、「8 持続可能な自

治体経営」の中にも同様の表現があり、文言を統一していただければと思う。

次に、「②防犯対策の強化」の方向性2の2つ目について、「子ども・高齢者を狙った犯罪や、まちの死角になりやすい公園や空き家等」と記載されているが、意味が分かりづらく、少し説明が足りないと感じる。

委員 長 公園自体がまちの死角であると読んでしまう可能性がある。

事務局 ここで表現したいことは、公園や空家について、手入れが行き届かず、草木の剪定が長期間にわたって行われていない場合、暗がりとなってしまう等、死角が生まれる可能性があるという意味合いである。

委員 長 その意味合いが分かりやすいよう、「暗がりを生みやすい」といった表現等に修正していただきたい。

吉田委員 「②防犯対策の強化」の方向性2の1つ目だが、防災活動ではなく防犯活動ではないか。

事務局 そのとおりである。修正させていただく。

吉田委員 方向性3について、「最新の手口等の情報を的確に伝え、様々な手段や機会を通じて広く注意喚起を図る」と記載されているが、もちろん注意喚起は大切であるが、勉強会のようなものも開催できると被害防止に役立つと考えた。

委員 長 個別の取組だが、その後の「啓発方法を工夫していくことで」という記載で表現できていると考える。また、同方向性の1つ目だが、調布警察署等との連携を強化することで適切な注意喚起にもつながることから、非常に重要であると考ええる。

猿谷委員 「①防災体制の充実」の方向性4について、「避難行動要支援者に加え、女性や外国人の視点を取り入れることで、誰もが適切な行動がとれるよう」と記載されている。外国人は多言語対応による情報発信等が考えられるが、女性は何を想定しているか。ここで表現したいことは、避難所等の運営に際し、女性の意見を取り入れるということではないか。

委員 長 意味合いは委員の発言のとおりである。表現を補足していただければと思う。

猿谷委員 高齢者の方に早目の避難を呼びかけるということは考えられる。

平谷委員 非常に古い話だが、昭和7年に白木屋デパートで起きた火災事件では、ある種の女性の視点による防災の考えが整理されたことはあるが、今回は違う。

吉田委員 着物に関する問題であると思う。

委員 長 今回は不要であるため削除する。

平谷委員 避難所運営における女性の視点は残すという理解で良いか。

猿谷委員 問題ないと思う。

都築委員 外国人の視点は良いと思うが、あえて女性を特別に記載する必要はあるだ

ろうか。避難所運営協議会にも女性はごく当たり前に参加している。

委員 長 ここで論じたい趣旨は、避難行動要支援者をはじめとする災害弱者への配慮である。根底には、「誰にでも」という考えがあり、避難行動要支援者以外では、特に外国人や女性への配慮が必要であるという考えを特別に記載して示している部分であり、このままで問題ないと考える。

吉田委員 「施策の現状と課題」の1番下について、「また、これまでの震災の教訓から」とあるが、震災ではなく災害が適切ではないか。

委員 長 震災と限定させる必要性は感じないため、災害に修正していただきたい。

柴崎委員 方向性1の上から2つ目について、「子育て世代等の若年世代やアクティブシニア世代の参加促進を」と記載されているが、社会的な流れに鑑みても、子育て世代は若年世代とは限らない。

猿谷委員 子育て世代の参加促進だけではなく、10代や20代の若い世代の参加促進を図りたいという想いもあると思う。

委員 長 時代の変化を捉えた際、子育て世代＝若年世代とは言えない時代になってきている。文言整理をお願いします。

五十嵐委員 災害時の情報伝達手段についてだが、停電が起きるとTVが見られなくなり、携帯の充電が無くなった場合にはSNSも見られなくなる。市民同士の口コミによる情報が頼りになる部分もあると思う。

猿谷委員 手動で発電ができるラジオが良いと聞いたことがある。

委員 長 方向性2の2つ目で、情報伝達体制の整備について論じているが、ここでは主な例示として防災行政無線とSNSを記載し、これだけではないことから「等」と記載していると理解している。

都築委員 狛江FMが市民の有志で立ち上がるという話を聞いたことがあり、こうした取組もこの中に含まれると思う。

吉田委員 狛江は市域が狭いため、庁用車が巡回し、スピーカーで災害情報を知らせた方が早いかもしれない。

柴崎委員 その手段も有効であると思うが、災害時の道路状況によっては車が通れない場合もある。デジタルによる利便性も大切であるが、何かあった際はアナログの手段も残しておかないといけないと思う。

猿谷委員 最後に残される手段は、やはり市民同士の口コミになるのかもしれない。

委員 長 重要なことは、情報を発信する市も、情報を受信する市民も、複数の手段を用意するということである。もし防災行政無線が聞こえなければ、ラジオで情報を入手すれば良い。1つしか手段を用意していない場合、その手段が失われた際に対応できなくなる。

- ・ 1 人権が尊重され、市民が主役となるまち

－事務局より資料の説明－

委員 長 次に、「1 人権が尊重され、市民が主役となるまち」について議論していただきたい。

平谷委員 まず、「④平和の希求・人権の尊重」の方向性3の1つ目について、「多様な性」という表現が分かりづらい。

次に、同方向性の2つ目について、「子育てや介護に代表されるあらゆる分野」と記載されているが、「子育てや介護をはじめとするあらゆる分野」とした方が読みやすいと考えるがいかがか。

最後に、方向性4について、在住外国人への支援のニュアンスが強く表現されていると感じるが問題はないか。

委員 長 まずは「多様な性」という表現だが、いわゆるLGBTや性的マイノリティーを意味する言葉という認識で良いか。

事務局 そのとおりである。

委員 長 その意味を読み取れるかどうかという点が問題である。

都築委員 性的マイノリティーという表現も適切かどうか判断しかねる。

委員 長 行政文書において、LGBTや性的マイノリティーという表現が適切か、本日の資料だけでは判断できないが、他自治体ではどのように表現しているか。

事務局 本分野は、先進的に取り組んでいる自治体との温度差が大きい分野である。今回の表現は、東京都の男女共同参画に関する計画と近隣の先進自治体の計画を参考にした。

委員 長 東京都の計画の表現に準じるという考えは悪くない。

猿谷委員 そもそもだが、「多様な性」と「仕事と家庭の両立」が併記され、この両者につながりがあるようなまとめ方だが、少し内容を欲張りすぎではないか。仕事と家庭の両立というよりも、結婚をする必要があるかどうか、家庭を持つ必要があるかどうかという選択肢の多様化ではないか。

都築委員 社会情勢の変化により、様々な問題が発生しているということである。

上田委員 これまでの議論と先進自治体の表現を総合的に勘案した上での提案だが、「性別等にとらわれず、多様な個人が尊重され」という表現はいかがか。

猿谷委員 そのような表現の方が良い。様々な個人がいて、様々な人生があるという意味で良いと思う。

吉田委員 同感である。

委員 長 これまでの議論を参考に、事務局で改めて整理していただきたい。

次に、「子育てや介護に代表されるあらゆる分野」という表現については、私も同意見であることから、他に意見がなければ委員の発言のとおり修正をお願いします。

最後に、方向性4についてだが、何か意見等はあるか。

猿谷委員 在住外国人への支援を行いすぎること、日本人への支援はないのかという議論になってはいけないと思う。お互いが安心して暮らすことができる環境づくりを推進していくという方向性である。

上田委員 視点を一度広げると、この方向性は「①平和の希求・人権の尊重」という施策の方向性の1つである。「人権」という視点に立てば、在住外国人に対する支援や情報提供は、我々日本人と比較して圧倒的に少ないという事実がある。この格差の是正に対して取り組んでいくという方向性を示したこの記述は評価に値すると考える。

委員長 論点を整理する発言をいただいたと思う。誰もが安心して暮らすためには、安定した地域社会の構築が必要であり、多文化共生という概念は重要である。在住外国人への支援や優遇というニュアンスが一方向的に記載されているのではなく、それぞれに対して一定の配慮が必要である中で、格差の是正を図るために在住外国人へのアプローチを記載しているという理解である。

都築委員 在住外国人ももっと積極的に地域社会との関わりを持とうとする意識も大切ではないかと考える。

また、委員長より、「安定した地域社会の構築」という発言があったが、海外では未だに紛争が起きているという事実を「施策の現状と課題」に記載しても良いと思う。

委員長 「多様な文化への理解」と記載されているように、様々な文化があって、相互に理解し合っていないといけない。

猿谷委員 外国人が参加できるイベントだけではなく、相互理解を深めるための取組も行った方が良い。

都築委員 国際交流協会が中心になると思う。

委員長 文章を入れ替えることで表現できると考える。その際、「在住外国人が地域とつながり」という文言は意味合いが被るため削除して良い。

五十嵐委員 「共に暮らしていける地域社会づくり」だが、ある人権に関する資料では、日本における共生とは、人を重んじる概念とする傾向があり、調和にとどまっているが、持続可能である希望ある社会を構築するためには調和だけではなく、外国人の方も当事者意識を持って、未来に向けて主体的な行動を重視するという共生感を育む必要があるといった趣旨の記載があり、現在の表現では弱いのではないかと考える。

委員長 そうした場合、どのような文言を補うことが適切であるかと考えるか。

五十嵐委員 共生やハイブリッド、グローバルといった表現はいかがか。

委員長 「共に暮らしていける」という表現は、共生とイコールであると考えます。

五十嵐委員 最近のトレンドでは、「共創」という表現もある。九州大学には共創学部

という学部がある。

上田委員 「平和の希求・人権の尊重」という施策であることから、「共に暮らしていける地域社会づくり」という表現以上の想いについては、また別の次元での議論になると考える。もちろん議論のポイントには賛同できるが、基本計画上はこの表現で良いのではないか。

委員 長 他に意見等がなければ、表現は一旦このままとする。

平谷委員 「②市民参加・市民協働の推進」の方向性1では、「参加率の低かった若者や、育児等で参加が難しい子育て世代の意見を捉え、まちづくりに反映させていきます」と記載されている。また、方向性2の1つ目では、「様々な市民・団体等が活動しやすい仕組みづくりを推進していきます」と記載されている。具体例としては、鯖江市のJK課や新城市の若者会議等が有名である。

上田委員 ここでは、新たな仕組みづくりを進めるというニュアンスよりも、現在の市民参加の仕組みに対し、これまでまちづくりに関わることのなかった市民も含め、幅広い年齢層が参加できる仕組みづくりに広げていくというニュアンスで理解した。

平谷委員 「③市政情報の共有」の方向性1の3つ目について、「市政情報を単に発信するだけではなく、市民と共有して初めて価値が出るという考えのもと、SNS等を活用する等」と記載されているが、「市民と共有して初めて価値が出るという考え方のもと、市政情報を単に発信するだけではなく、SNS等を活用する等」とした方が良いと考える。

委員 長 文章を入れ替えた方が分かりやすい。

平谷委員 方向性1の2つ目について、「世代やターゲットに合わせた様々な方法」という表現に違和感を覚える。

委員 長 ターゲットの中に若者等の世代が含まれる場合もある。世代以外では、例えば女性をターゲットにすることもあると思う。世代とターゲットは並列にならない場合がある。

事務局 「世代に合わせた様々な方法」とは、例えば若者にはSNSによる情報発信が有効であるが、一方で高齢者には紙媒体の方が伝わりやすいといった考えで使用している。市政情報の発信について、全て一律に行うのではなく、受け手を想定して効果的に行う必要がある。

「ターゲットに合わせた様々な方法」とは、過去に外部評価委員会において、施設の改修に係る福祉の補助制度の件数が伸び悩んでいる際、その補助を使用する市民が訪れる可能性が高い場所として考えられる、都市建設の部署や市内金融機関にチラシを設置することで件数が伸びたという事例があった。こうしたターゲットを想定した市政情報の発信といった考えで使用している。

委員 長 事務局の意図は理解できた。「伝えたい対象に合わせた」といった表現でも良いかもしれない。

猿谷委員 方向性2の2つ目について、「オープンデータの公表」とあるが、公開ではないか。

委員 長 適切な表現を確認していただきたい。

・8 持続可能な自治体経営
－事務局より資料の説明－

委員 長 最後に、「8 持続可能な自治体経営」について議論していただきたい。

平谷委員 「①持続可能な行政運営の推進」の方向性2の1つ目について、「今後の新たな技術革新等についても注視していきます」と記載されているが、表現は注視で良いか。もう少し積極的な表現でも良いと考えるがいかがか。

委員 長 表現の修正をお願いします。

吉田委員 「施策の現状と課題」の1つ目について、単純な質問で申し訳ないが、高齢化比率は何歳以上を示しているか教えていただきたい。

平谷委員 一般的には65歳以上である。

委員 長 「施策の現状と課題」の2つ目について、「行政の役割が拡大し」と記載されているが、少し唐突な印象を受ける。「社会情勢の変化に応じて」といった文言を先に記載した方が分かりやすいと考える。

猿谷委員 方向性2の2つ目について、文章の意味の確認だが、マイナンバー制度の運用の事務の簡素化と効率化か、それとも、マイナンバー制度を運用することによって、事務の簡素化と効率化を図っていくものか。

事務局 後者である。

委員 長 後者である意味が読み取れるよう修正していただきたい。

平谷委員 まず、「②持続可能な財政運営の推進」の方向性1について、「連結負債残高の維持」と記載されているが、縮減や削減といった積極的な表現は難しいか。

次に、同方向性の「財務諸表等の作成や公表、活用も踏まえ」と記載されているが、「財務書類等を活用し」と記載しても良いと感じる。「作成や公表」として、ワンステップあることを表現した意図があれば教えていただきたい。

最後に、方向性2の1つ目について、「生活が困窮している方」と記載されているが、「方」という言葉はこれまで使用していないことから、「市民」とすべきであると考えます。

事務局 まず、「連結負債残高の維持」という表現だが、中期財政計画で示してい

る表現であり、整合を図るという観点でこの表現とした。

次に、「財務諸表等の作成や公表、活用も踏まえ」という表現だが、平成27年の総務省からの要請を受け、28年度決算より作成・公表を始めたばかりの新しい取組であり、現行の基本計画では論じられていない部分であることから、あえて表現した。

平谷委員 特段こだわりはないが、財政課が慎重な書きぶりに徹した印象を受ける。

委員 長 表現は再度、財政課とも確認していただきたい。

また、「生活が困窮している方」は「生活が困窮している市民」に修正していただきたい。

平谷委員 方向性の2の3つ目について、「定例的な事業や業務、行政と民間の役割分担も含めた見直しや改善」と記載されているが、少し読みづらい印象を受ける。

委員 長 「定例的な事業や業務について、行政と民間の役割分担も含めた見直しや改善」と修正した方が分かりやすいと考える。

また、方向性2の5つ目について、「公平性の確保という観点」と記載されているが、誰と誰に対する公平性を指しているか。恐らくここでは施設やサービスを利用している人と利用していない人に対する公平性を指しているのではないか。

事務局 そのとおりである。

委員 長 その場合、公平性だけではなく、公正性も確保しなければならない。要するに、公平かつ正しくなくてはならず、他自治体の多くの基本計画でもこうした表現を用いているため追記していただきたい。

平谷委員 「③組織づくり・人財育成の推進」の方向性1の2つ目について、「経営感覚を持った人財」と記載されているが、防災や防犯施策では、「活動の核となる人材」と記載されている。「人財」と「人材」の漢字の使い分けに明確な判断基準があるか。

事務局 「人財」は市役所職員を示すときにのみ使用している。人財育成基本方針という名称の方針を市では策定している。

平谷委員 確かにその整理に当てはめると、防災や防犯の場合は地域住民が対象であることから、「人材」になっているということが理解できる。この使い分けは他自治体も同様か。

事務局 同様の使い分けをしている自治体もあれば、そうでない自治体もあると思う。狛江市では統一してこのように使い分けしている。

猿谷委員 方向性2の2つ目について、「ハラスメント対策を徹底し、誰もが安心して働き続けられる職場づくりに努めていきます」と記載されているが、制度だけではなく、コミュニケーションができる風通しの良い職場づくりとい

た雰囲気も大切であると考える。

都築委員 きちんと相談できる雰囲気もなくはない。

委員 長 制度や体制の構築も大切だが、実際に機能するかは別である。追記しても良いと考える。

平谷委員 同感である。

五十嵐委員 方向性3の1つ目について、「能力・やる気」と記載されているが、個人の資質と能力を併せた考えとして、コンピテンシーという言葉が最近使用されている。

平谷委員 資質については、最大限に発揮できるといった性質とは異なるかもしれない。

委員 長 現行の行政計画で使用されていない文言であれば、このままの書きぶりで良いと考える。

都築委員 「施策の現状と課題」の2点目について、「『未来戦略会議』を開催しました」と記載されているが、ここで文章が終わってしまっはやりっぱなしの印象を受ける。「報告書を作成しました」というような結びの方が良いと考える。

委員 長 修正をお願いします。

議題2 その他

委員 長 その他特に意見等なければ、第8回狛江市基本計画策定第一分科会を終了とする。